

第 3 回鳥栖市総合計画審議会での主な意見とその対応

主な意見の概要	対応
高齢者の買い物支援について。座談会での意見や鳥栖市の課題の中でも言及しているが、高齢者の買い物支援が課題となっている。免許証の自主返納も増加している現状、そういう取組への言及が必要ではないか。	課題として認識しているところ。基本計画（案）の P20、21 において公共交通の現状と課題、取組等を示しているが、交通弱者についても言及しており、現状ミニバス等のニーズ調査等を踏まえて、ルートの見直し等を行っていきたい。また、本文中への記載はないが、実施計画において「新たなモビリティの調査・検討」の位置付けを予定している。
防災・減災について。災害時の避難所に関する言及が必要ではないか。	基本計画（案）の P22、23 において防災・減災についての考え方をお示ししているところ。P23 において左記の意見に関して言及。
成年後見制度について。国において後見制度利用促進基本計画を策定されていて、市町村においてもその計画策定に努めるようになってきている。高齢者や障害者の自立を考えるときには欠かせないものであるため、総計において成年後見制度への言及を検討いただければ。	P32、33 において高齢者・障害者福祉の考え方（自立や社会参加等）についてお示ししているところ。また、現在策定中の障害者福祉計画や高齢者福祉計画において、左記の意見を沿った成年後見制度への言及をする予定。
商店街のバリアフリー化について。商店街の活性化について触れられているが、商店街は高齢者の交流の場であったり、買い物のサポートであったりとその強みがあるので、商店街のバリアフリー化についての言及を検討いただければ。	基本計画（案）の P32、P33 において障害福祉の観点からバリアフリーに関する言及を行っている。左記の意見を踏まえて修正。また、現在策定中の障害者福祉計画においてバリアフリー・ユニバーサルデザインについての全体の考え方を整理することとしている。
学校教育の現場における多職種連携について。インクルーシブ教育の推進について触れられているが、その推進に当たっては教職員の負担が激増することが予想される。教職員のみならず、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの専門職との連携を強化して、教職員が学習指導に専念できるサポート体制づくりが重要となってくる。そういった考え方についての言及を検討いただければ。	P49 において多職種連携の考え方について言及。
各施策の指標について。成果指標と活動指標が混在している。要因等を検証しやすい指標とそうでない指標は分けて表記した方がいいのでは。	全体的に整理

<p>令和元年度の実績値だけではなく、6次総計の進捗の際の実績として、平成21年度や平成26年度の実績等も示してもらおうと、施策の動きや経過などが理解できてより議論しやすくなるのでは。</p>	<p>各年度の実績については、その数値の説明が別途必要となるため、基本計画においての表記は難しいと考える。</p>
<p>市街化区域の残存農地面積の推移を示してもらおうと、土地利用の在り方の方向性が見えてくるのではないか。あわせて都市計画道の整備率の進捗の推移も示してもらおうと、施策の方向性みたいなものが見えてくるのでは。</p>	<p>※参考までに、第1回の審議会前に事前説明資料として、第6次鳥栖市総合計画の振り返りとして、指標及び満足度調査の経年比較をさせていただいている。</p>
<p>総合計画はある程度夢を持ちながら策定していくべきもの。重要なことは計画策定後にどう実践していくかというところであり、市民にいかに分かりやすく周知するかというところ。</p>	<p>第7次総合計画においては実施計画を策定することとしており、その検証を行うことで総合計画の進捗を図っていく。また、総合計画の概要版を作成する予定であり、各戸配布等行うことで周知を図っていく。</p>